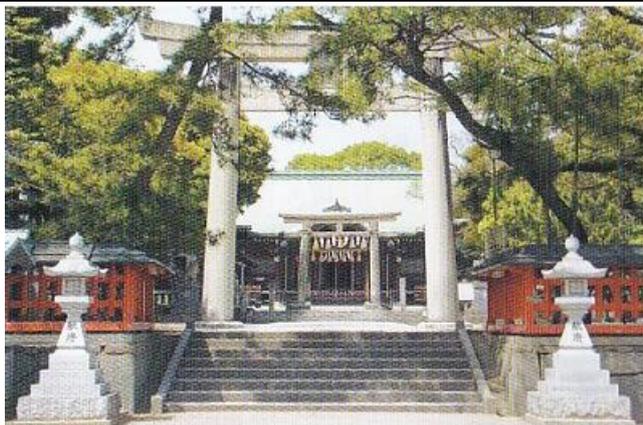


「唐津くんち」にかける夢 ～神田カブカブ獅子編～

唐津神社は、天平勝宝7年(755)に建立され、建立1200年祭が、平成27年度に行われました。御神祭では、一の宮「住吉三神(海上安全と禍事清祓)、二の宮(神田五郎宗次公)、(水波能女神:火伏の御神徳)」をお祀りしてあります。

現在の「唐津くんち」(唐津神社の御祭神が御神輿で御旅所にお渡りになる神幸祭)の形は、寛文年間(1661～1672)の頃と伝えられています。当時から、355年の間に現代の儀式様式として定着してきたこととなります。



唐津神社



唐津神祭行列図(部分)



曳山社頭勢揃

町名	山の名称	製作年月	年代	作者	彫師
刀町	赤獅子	文政2年9月	1819	石崎藤兵衛	川添武右衛門
中町	青獅子	文政7年9月	1824	辻利吉	儀七
材木町	浦島二亀	天保12年9月	1841	須賀伸三郎	(不明)
呉服町	義経の兜	天保15年9月	1844	石崎八右衛門	嶋山卯太郎
魚屋町	鯛	弘化2年9月	1891	(不明)	(不明)
大石町	鳳凰丸	弘化3年	1846	永田勇吉	小川次郎兵衛
新町	飛竜	弘化3年9月	1846	中里守衛重広	中島良吉春近
本町	金獅子	弘化4年8月	1847	(不明)	原口勘二郎
細屋町	黒獅子	安政5年	1858	(不明)	(不明)
木崎町	信玄の兜	元治元年	1864	近藤藤兵衛	畑重兵衛
平野町	謙信の兜	明治2年8月	1869	富野式藏	須賀伸三郎
米屋町	酒呑童子と頼光の兜	明治2年9月	1869	吉村藤右衛門	吉村藤右衛門
京町	珠取獅子	明治8年10月	1875	富野淇淵	大木卯兵衛
江川町	蛇宝丸	明治9年10月	1876	宮崎和助	須賀伸三郎
水主町	鯨	明治9年11月	1876	富野淇淵	川崎峰治

曳山製作年代と作者・彫師

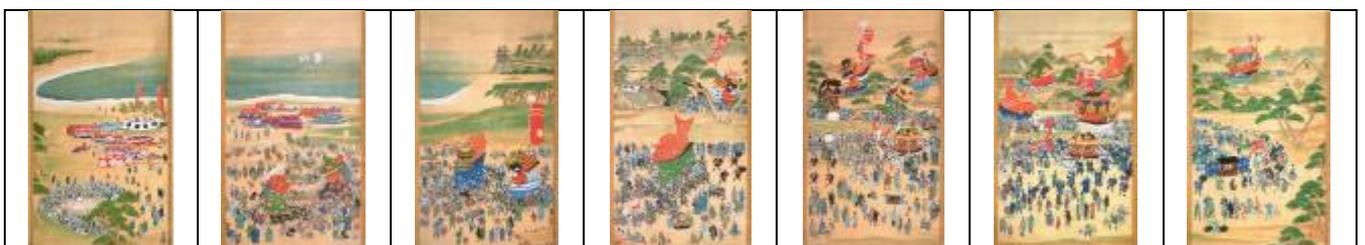
曳山の歴史としては、宝暦13年(1763)に御神輿にお供する出し物として各総町が笠鉾を出したとの記録があり、その前から笠鉾を担ぎ山、次に出てくる走り山は、ちやちな台車の上に

左大臣・右大臣、天狗面、仁王、鳥居、踊り屋台と続きます。御旅所に神社の境内を作る考え方だと思われます。車が着いた台車の上に各町が趣向を凝らした作り物を乗せ勢いよく引き回していたそうです。

小笠原長奏公が城主になった文政2年(1819)、刀町が赤獅子を作り、囃子曳山と呼ばれました。59年掛けて、各町の走り曳山は、現在の曳山に作り替えられました。明治9年(1876)が最後ですが、七宝丸「当時は蛇宝丸と呼称」(江川町:10月)と鯨(水主町:11月)が同じ年に作られたこととなります。(年表を参照して下さい)。

神田区伝統文化保存会では、神田に関わる「神田五郎宗次公」、「神田カブカブ獅子」、「飯田観音堂」、「熊野原神社」、「唐津神社」等の由緒・歴史を調べていました。平成27年度の小学3年生の指導講和に「ふるさとの歴史」という講座があり、「神田のカブカブ獅子」についてお話をしてくださいとの依頼から、調査を深めていきました。

調べてみてびっくりしたことは、唐津の歴史ロマンが見えてきたことです。皆さんも唐津市民会館の緞帳や曳山展示場でも確認できますが、唐津くんちのメインである御旅所神幸の襖絵図です。この襖絵図の原図は、山内家(京町の山内薬局:吉富寛さんがWEBにて情報公開)が描かせたとお伺いしています。史実としては、明治16年(1883)唐津魚屋町西の木屋8代目「山内小兵衛均安蔵六」が本町の絵師「富野淇園」に描かせた7枚の襖絵図とされています。



平成28年度には、最新技術を駆使したプロジェクトマッピングが、この襖絵図をデジタル動
画化し、唐津城に映し、唐津観光に貢献しています。

さて、話を元に戻しますと、この襖絵図の中にある史実です。よく見ると、この襖絵図に、お
姫様(小笠原壱岐守長行の正室満寿子さま)、各町の幕、力士の姿、カブカブ獅子等が
見受けられることです。(詳細は、吉富寛さんのWEBをご覧ください)

皆さんもご覧になると、すごく豪華な祭りであったことを窺い知ることができます。現在の唐津
くんちを史実に基づいて復元できないのかなというのが、「唐津くんち」に対する夢です。歴史
通りに133年前の豪華な祭りに近づけることにより、「唐津くんち」を以て、もっともっと、世界中
から人を集めることができるのではなからうかと思えます。

最後に、カブカブ獅子のお話です。現在、「一中校区地域まちづくり会議」により、神田カ
ブカブ獅子を中心とした唐津市内のカブカブ獅子の現状の調査、神田五郎宗次公と唐津
神社の関係、神田村から唐津村になった経緯、唐津くんちと神田カブカブ獅子舞の奉納
(御旅所神幸の日午前5時に唐津神社へ獅子舞を奉納しています)等々を調査していま
す。史実が少しでも明らかになり、今後の唐津の発展に寄与できればと思います。



昭和31年10月29日神田青年団



現在のカブカブ獅子

現在の神田カブカブ獅子の現状について紹介します。

神田カブカブ獅子は、享和2年(1802)に神田村の大工又造が、獅子の損傷に心を痛め、一心に彫り起こした史実が確認されています。現在、唐津市神田の飯田観音堂に桐の箱に嚴重に保管されています。神田村の若者は、このカブカブ獅子を使って練習し、御旅所神幸の日に午前5時に唐津神社へ奉納するという伝統を継承しています。

組織としては、所有者の飯田家、保管責任者の神田伝統文化保存会、獅子舞伝承の神田カブカブ獅子舞保存会が連携し、伝統文化の伝承を担っています。



獅子舞の奉納 唐津神社
お旅所神幸(11/3) 午前5時～



伝統を受け継ごうとカブカブ獅子舞の
保存会を再興させた唐津市地区の若者たち



雄獅子



雌獅子

神田区の夢は、唐津くんちを史実に近づけることと神田カブカブ獅子が、御旅所まで、「一宮」、「二の宮」をお守りしながら神幸できるようにすることです。いろいろな難題・課題があることと思いますが、唐津の発展のためになると信じて疑わない夢を持っています。

(神田カブカブ獅子の由緒)

市内神田に、観音像とカブカブ獅子で知られている飯田観音堂があります。唐津神社の秋季例大祭「からつくんち」に奉納されるのが、この神田のカブカブ獅子です。

カブカブ獅子は、雌雄一対で、雄獅子は角が1本で耳まで含めた幅が80cm、角までの高さは58cmあります。雌獅子は、角が左右に1本ずつ2本付いており、幅82cm、高さ52cmと雄に比べて一回り小降りです。

獅子は木造漆塗りで全体に濃い緑色をしていますが、口と内側は朱色、角と目と歯は金色に塗り分けられています。

このカブカブ獅子は享和2年(1802年)、神田村の大工又蔵が自分の腕だめしにと一心に彫りあげ飯田観音堂に奉納したといわれています。又蔵43歳の作りであることが獅子に刻まれた銘によってわかります。

獅子の頭をかぶって行う獅子舞は、唐から伝わり舞楽として奉納していたが、後世、神楽などで五穀豊穡の祈とう、悪魔払いとして行われるようになりました。

唐津くんちでは、11月3日、神田地区の若者に担がれたカブカブ獅子が、午前5時神社に参拝して獅子舞を奉納し、その後二手に分かれて神田地区の家を回り最後に飯田観音堂に落ち合います。

唐津の絵師・富野淇園(きえん)が書いたとされる『唐津神祭行列図』には、6頭の獅子舞の姿が描かれており、明治初期ころまでは、神田のほかにも町田、菜畑、ニ夕子、江川町、京町などのカブカブ獅子が神祭の折、みこしの前後に従っていたそうです。

神田のカブカブ獅子が製作された享和2年(1802)は、刀町の赤獅子が作られた文政2年(1819年)より17年前です。そして雄獅子の方は、耳、目、鼻などや後ろに頭髪を垂れているところまで中町の青獅子にそっくりで、中町の青獅子が神田のカブカブ獅子を模して作られたという説もあります。

また、民俗文化財として極めて価値が高く、昭和60年1月24日に市の重要有形民俗文化財に指定されました。



飯田観音堂



唐津市重要有形民俗文化財



聖観音立像



平成28年度部分修復(調査)



保管箱の上で



雌獅子の修復部確認



雄獅子の修復部確認



長松産業文化祭(2013)

文責 2016年10月吉日 神田区長 水竹昌則

— 以上 —

参考文献

- ・ 吉富寛さんのWEB公開情報
- ・ 唐津神社由緒／唐津観光協会のパンフレット／その他の歴史情報